

平成27年度

応募件数 46件 助成件数 8件

団体名	所在地	活動内容の概要
<p>特定非営利活動法人 有珠山周辺地域ジオパーク友の会</p> <p>代表理事 三松 三朗</p>	<p>壮瞥町</p>	<p>【道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興実験】 国道等の周辺で繁茂するオニグルミ等の成長の早い雑木は景観や除雪の妨げになるが、反面、樹皮は編み籠の素材となり高級な民芸品の材料となるほか、幹は固く登山杖の素材に格好である。当会ではシーニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルートで景観保全活動を実践しているが、ごみを宝に変えるプロジェクトの際にリンゴ農家の剪定(せんてい)枝をチップにして燻製(くんせい)の材料とした事業に参画し、沿道の地域資源活用について戦略的な仕掛けを検討していたところであり、昨年試験的に私有地で譲り受けたクルミの皮で試作品を作成した。本年はオニグルミの幹部分を高齢の観光客が増えている有珠外輪山遊歩道利用者に無償貸出を行い、道路の邪魔者をボランティアで駆除し、これを観光振興に結び付ける実験を行う。</p>
<p>札幌ロケーションフォトウェディング協議会</p> <p>代表幹事 酒本 宏</p>	<p>札幌市</p>	<p>【インバウンドに対応したロケーションフォトウェディングによる地域活性化普及事業】 平成23年10月に設立した札幌ロケーションフォトウェディング協議会は、これまで香港や台湾を主なターゲットとして誘客活動をしてきた。3年半の誘客活動を通じて、ロケーションフォトウェディングで訪れるカップルが増加した。そこで、ロケーションフォトウェディングが、今後増加が予想されるインバウンドに対応した旅行商品のひとつとなるように、道内の自治体や観光協会、フォトスタジオなどを対象に「普及啓発」や「研修事業」などを行う。普及啓発事業を通じて将来的には、ロケーションフォトウェディングのネットワークづくりを行いながら、インバウンドに対応していくことを目指す。</p>
<p>豊正FAM協議会 北の大地マルシェ</p> <p>会長 小西 泰子</p>	<p>岩見沢市</p>	<p>【直売所を核とした人が訪れる地域づくり】 農産物の価格の低迷や生産費の高騰、後継者不足などによる離農など農業、農村地域を取り巻く環境は厳しさを増しており、農作物の付加価値向上や交流促進など地域活性化が課題となっている。 地域の農業者が今後も安定的に農業経営を継続し、地域の維持・発展を図るために、農協の資材店舗跡を活用した農産物直売所「北の大地マルシェ」の開設を通して「顔の見える農業」を構築し、農村や農産物の情報を発信する場や地域住民が集える拠点をづくり、地域の活性化につなげる。</p>
<p>鉄のまちフェスタ実行委員会</p> <p>委員長 日浅 健</p>	<p>室蘭市</p>	<p>【鉄のまちフェスタ2015】 鉄のまちフェスタは、鉄の街室蘭で鉄に親しむイベントとして2004年から輪西町一帯で年1回開催されている。鉄と人との身近な関係を探ることをテーマに、ものづくり体験やアート展示、鉄分たっぷりの飲食物の提供などを行い、新日鉄住金株式会社との工場見学を同時開催するなど企業との協力も得て、地域の主要産業である鉄について理解と愛着を深める場を市民に提供しながら、新規事業の試行の場として活用し、地域活性化に資することを目的としている。今年度は新たに「空き店舗コンペ」と「鉄のものづくり体験メニューの新開発」を企画した。</p>
<p>十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート</p> <p>代表 三井 福成</p>	<p>鹿追町</p>	<p>【十勝シーニックバイウェイ・十勝平野山麓ルートにおけるインバウンド観光向けアウトドア・食情報の発信事業】 近年、来道が増えている外国人観光客向けに、当ルートの観光ポイントである「食」「農」「アウトドア」を主体としたパンフレットを配布し、専用ホームページへ誘導、アンケートの実施を行い検証をしながら、今後の外国人観光客受入に活用する。</p>
<p>網走川流域農業・漁業連携推進協議会</p> <p>会長 山田 邦雄</p>	<p>網走市</p>	<p>【「網走川流域での農業と漁業の持続的発展に向けた共同宣言」の具現化に向けた各種活動】 農業と漁業の連携の輪をさらに広めるため、いろいろな機会での活動の紹介など情報提供を行い、理解促進を図る。漁業者から他産業者に対する応援事業、ヒトデ堆肥の商品化に向けた取り組み、植樹事業、道有林・網走湖視察事業、小学生等を対象にした給食食材提供と併せた出前授業の実施、一般市民を対象にした講演会の実施、各種イベントへの参加と販売促進の実施、農業者・漁業者女性部による6次化への取組研究学習等を行う。</p>
<p>特定非営利活動法人 ふらの演劇工房</p> <p>理事長 瀬川 謙二郎</p>	<p>富良野市</p>	<p>【富良野演劇工場15周年記念「演劇のまちづくり事業2015」】 国内初のNPO法人ふらの演劇工房は、2000年に市が建設した300人キャパの演劇専用劇場「富良野演劇工場」の管理運営委託を拠点として、倉本聰氏の劇団「富良野GROUP」の公演や青少年に向けたワークショップを実施するなど「演劇によるまちづくり」を推進してきた。15年間の歩みの中で、自他ともに一応の成果は認められるものの、地域全体への経済波及効果に影響を及ぼすためには、一つ先のステップを踏み出す必要がある。そこで、①15周年を記念した公演の上演を中心に、②15周年記念フォーラムと③ニーズ調査を実施し、新しい「演劇によるまちづくり」を推進するきっかけとする。</p>
<p>舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会</p> <p>会長 柏 敏春</p>	<p>長沼町</p>	<p>【長沼町舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す活動】 当会は千歳川流域の治水対策として整備が進む遊水地群のひとつである長沼町の「舞鶴遊水地」にタンチョウを呼び戻すことを目標に、地域づくりの取り組みを2014年5月から(公財)日本生態系協会との連携で開始し、取り組みへの賛同や理解、支援の輪を広げるべく、地域での学習会等を開催している。今回、こうした地域での学習会に合わせ、実際にコウノトリとの共生を実現させた豊岡市について、役員や支持体関係者等による視察研修を行い、住民や関係機関からその効果や実情をヒアリングした結果の報告会を開催し広く共有することで、住民が抱く懸念や疑問等を解消し、地域での合意形成の一助とすべく本事業を計画した。</p>